

植村直己の精神を伝える

# 2015日本冒険フォーラム

植村直己が追い続けた世界

# なぜ、極地なのか

©文藝春秋

日時 2015年11月22日(日)

会場 明治大学

駿河台キャンパス(お茶の水)内  
アカデミーコモン アカデミーホール及びロビー  
東京都千代田区神田駿河台1-1(JR中央線 御茶ノ水駅下車3分)



参加費 **無料** (フォーラム参加には入場整理券が必要です)

**展示** 10時〜18時

- ☆植村直己の足跡と植村の素顔展  
11月16日(月)〜22日(日)  
植村の足跡や植村のエピソードを紹介
- ☆チャレンジャーたちのメッセージ展  
11月22日(日)  
チャレンジャーが冒険の途中で撮影した写真及び夢メッセージを紹介
- ☆極北のエスキモー民族と自然紹介展  
11月22日(日)  
山崎哲秀さんによるグリーンランド北西部のエスキモー民族の民具と写真展示

## プログラム

13:35〜 プレゼンテーション  
「植村の育った町・コウノトリ悠然と舞う町」  
中貝宗治(豊岡市長)

13:55〜 植村直己記録映像上映  
「素顔の植村直己  
〜夢果てしなく 愛かぎりなく〜」

14:15〜 基調講演「今あらためて植村直己を語る」  
湯川 豊氏(文芸評論家・エッセイスト)

14:55〜 パネルディスカッション  
「北極・南極 こんなに違う」

- ゲスト……………市毛良枝 さん(俳優)
- コーディネーター…江本嘉伸 さん(地平線会議代表世話人)
- パネリスト……………大場満郎 さん(北極点・南極点到達)  
岩野祥子 さん(南極越冬2回)  
荻田泰永 さん(北極点3度の挑戦)  
武田 剛 さん(環境ジャーナリスト)

●申込先  
日本冒険フォーラム運営委員会  
(豊岡市立植村直己冒険館内)  
〒669-5391 兵庫県豊岡市日高町伊府785  
電話 0796-44-1515/FAX 0796-44-1514  
Eメール boukenkan@city.toyooka.lg.jp

●申込方法  
①電話 ②FAX ③はがき ④E-mail ⑤植村直己冒険館窓口のいずれかで、お名前(団体名)、ご住所、ご連絡先、参加人数をご連絡ください。



主催 兵庫県豊岡市  
(植村直己が生まれ育った町)

共催 明治大学



コウノトリが舞う植村のふるさと



植村直己冒険館

植村直己の素顔をふり返り、冒険文化を考える第2回目の日本冒険フォーラムを開催します。世界初の五大陸最高峰登頂や北極点犬ゾリ単独行など、厳しい自然と向き合いながらもその困難に挑戦し続けてきた植村精神を語り合い、後世へ伝えていきます。

今回のテーマは「極地」。植村が初めて足を踏み入れた、果てしなく広がる乱氷帯の北極。植村の次の大きな目標としていた南極…。そこは今はどうなっているのでしょうか。極地をよく知る冒険家・ジャーナリストが知られざる二つの「氷の大陸」を紹介、刻々と変化し続ける「地球環境の今」を語ります。

また、全国で活動中のチャレンジャーの冒険行の紹介や情報交換を行います。

### 基調講演／今あらためて植村直己を語る

#### 湯川 豊 (ゆかわ ゆたか)

1938年新潟県生まれ。文芸評論家・エッセイスト。文藝春秋の編集者として長年親交があり、植村にとって良き聞き役、相談相手であるとともに一緒に夢を追い続けた理解者であった。消息を絶って30年の節目に『植村直己・夢の軌跡』を出版した。



### パネルディスカッション／コーディネーター

#### 江本 嘉伸 (えもと よしのぶ)

1940年神奈川県生まれ。1979年に友人たちと発起した、旅や冒険好きの行動者たちのネットワーク「地平線会議」代表世話人。毎月発行の「地平線通信」もこれまで437号を数える。元読売新聞編集委員。南北両側からのエベレスト登山取材、北極、チベット横断、モンゴル遊牧草原など取材や学術調査にあたる。



### パネルディスカッション／ゲスト

#### 市毛 良枝 (いちげ よしえ)

1950年静岡県生まれ。俳優。NPO法人日本トレッキング協会理事。知人に誘われた初めての登山が楽しく、自然の魅力にひかれてアウトドア全般に活動の場を広げる。以来、環境問題にも関心を深め、環境カウンセラーとしても登録している。前回の2011日本冒険フォーラムでもゲスト出演。



#### 【後援】

兵庫県／公益社団法人日本山岳協会／公益社団法人日本山岳会／日本勤労者山岳連盟／公益社団法人日本山岳ガイド協会／NPO法人日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト／日本ヒマラヤ協会／NPO法人日本トレッキング協会／日本アドベンチャー・サイクリストクラブ／地平線会議／株式会社 文藝春秋／株式会社山と溪谷社／株式会社船社／株式会社スイッチ・パブリッシング／美津濃株式会社／株式会社ICI石井スポーツ／株式会社好日山荘／株式会社モンベル／日本用品株式会社／株式会社ヨシダテント／明治大学山岳部炉辺会／大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所／公益財団法人植村記念財団・植村冒険館

### パネルディスカッション／パネリストの皆さん

#### 大場 満郎 (おおば みつろう)

1953年山形県生まれ。4度目の挑戦で世界初の北極海単独徒歩横断に成功、また、南極単独徒歩横断も果たし、世界で初めて両極単独徒歩横断に成功した。地元で「アースアカデミー・大場満郎冒険学校」を設立。1999年「植村直己冒険賞」受賞。



#### 岩野 祥子 (いわの さちこ)

1975年愛知県生まれ。第42次日本南極地域観測隊に参加。重力やGPSなどの地球物理学観測を担当。第48次隊にも参加、女性初の2度の南極越冬隊員を経験した。東日本大震災後、被災地の支援活動を続けたり、防災士の資格を取得し各地域の防災研修などで活動している。



#### 荻田 泰永 (おぎた やすなが)

1977年神奈川県生まれ。2001年から一人で何度も北極を訪れるうちに、北極の魅力に気づき始める。北極に通いだして10年以上が経過した。2012年からは大きな目標である「北極点無補給単独徒歩到達」への挑戦を続けている。



#### 武田 剛 (たけだ つよし)

1967年福岡県生まれ。立教大学山岳部を経て、1992年に朝日新聞入社。2003年から1年4か月間、日本南極地域観測隊の同行記者として越冬。帰国後、地球環境をテーマに北極やヒマラヤなどを取材。グリーンランドでは、地球最北の村で暮らす大島育雄氏を取材。2012年に世界遺産の屋久島に移住して、環境取材を続ける。



### 植村直己の心をつなごうプロジェクト

この旗には「植村直己の心をつなぐ」ことを目的に、会員証的な役割を果たすシリアルナンバーが入っています。賛同していただいた方に販売いたします。(1枚800円)

- 生地色…白
- プリント色…青
- サイズ…W30cm×H20cm



植村直己冒険館

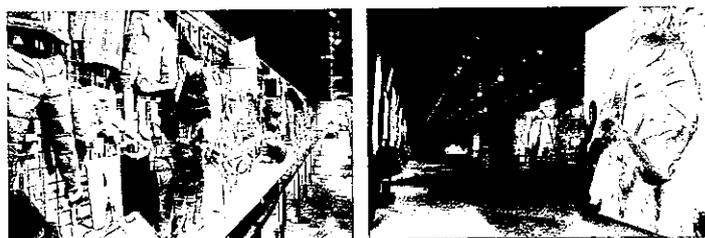
どんぐりフラッグ



来て、見て、感じる。

## 植村直己冒険館

夢に向かってひたむきに生きた 植村直己  
その熱き想いを感じる空間へぜひお越しください。



●お問合せ●

豊岡市立植村直己冒険館(日本冒険フォーラム運営委員会事務局)

〒669-5391 兵庫県豊岡市日高町伊府785 電話 0796-44-1515 / FAX 0796-44-1514 / Eメール boukenkan@city.toyooka.lg.jp